

HOSEI UNIVERSITY FACULTY OF SOCIAL SCIENCES GUIDEBOOK 2015

社会学部

社会政策科学科

▶ Department of Policy Science on Society

社会学科

▶ Department of Sociology

メディア社会学科

▶ Department of Media and Communication Studies



法政大学 社会学部

<http://www.hosei.ac.jp/shakai>

[法政大学 社会学部事務課]

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

TEL: 042-783-2351 ~ 4

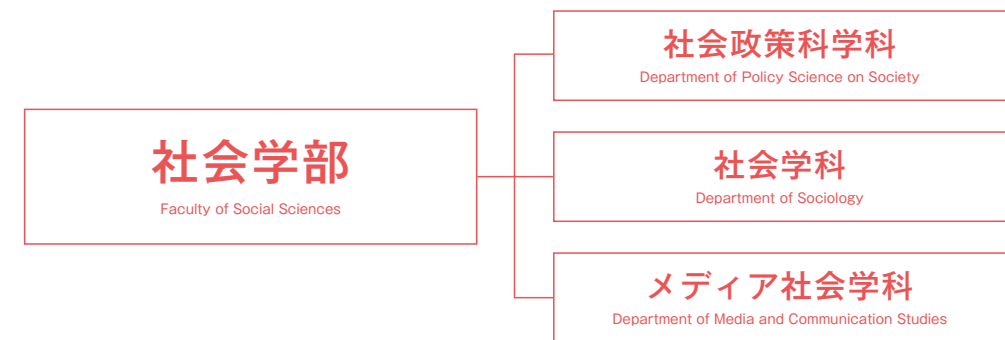
[法政大学入学センター]

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1

TEL: 03-3264-9300

さまざまな社会現象を 洞察し現実への 対応力を身に付ける。

社会学部は〈社会〉を総合的に科学しながら、社会全体をより良くする方法を考え、提言できる「力」を養う学部です。環境、教育、流行、デジタルメディアなど私たちの身の回りで起こるさまざまな社会現象を洞察し、そこにある問題を発見・分析し、解決への道を探る力を身に付けます。社会学部では、これまで蓄積した研究成果をもとに、質の高い教育を実現しています。社会の変化に合わせて構成された、社会政策科学科、社会学科、メディア社会学科の3学科制のもと、全国でも珍しいコース・プログラム制を導入。一人ひとりの興味・関心に応じた多彩な学びをかなえます。



創設から60余年。
私立大学初の社会学部として革新を続ける。

法政大学社会学部は1952年、私立大学初の社会学部として誕生しました。以後60余年にわたって、本学部はずっと社会と向き合いながら、さまざまな社会問題がどのような構造から生まれているのか、社会の解明と改善に大きく貢献してきました。

社会学部の対象は、私たちがその一員として暮らす“社会”そのものです。オリンピックやワールドカップはなぜ盛り上がるのか、なぜSNSがこれほど流行するのか、人はなぜ多数に流されるのか、人間関係は本当に希薄になったのか、といった、世の中のあらゆる現象を学問対象として捉え、解き明かしていきます。

本学部は創設以来、常に動き続ける社会に合わせて、学びの内容やカリキュラムを進化させてきました。その流れに応えられる実績を持つ教員も揃っています。歴史と伝統の中で積み重ねてきた研究成果を生かしながら、さらなる発展を目指します。

社会学部学部長
田中 充教授

たなかみつる／1952年長野県生まれ。東京大学理学部卒業、同大学院理学系研究科修士課程修了。理学修士。川崎市役所勤務等を経て2001年法政大学社会学部教授に着任。専門は環境政策論。政府の中央環境審議会専門委員、自治体環境審議会委員、環境省環境研究総合推進費「温暖化影響評価・適応施策に関する総合的研究」の研究サブ課題代表等を務める。最近の著書に『低炭素・エネルギー政策の実践』（2014年、ぎょうせい）、『気候変動に適応する社会』（2013年、技法堂）など。



社会学部の特徴

60年の歴史が培った充実の教育体制

時代の変化や学生の多様な興味に即した「効果的なカリキュラム構成」。質の高い研究実績を挙げている教授陣。これらは社会学部のパイオニアである本学ならではの特長です。

ゼミをコアにしたアカデミック・コミュニティ

一つの学部や学科がアカデミック・コミュニティと言えるためには、「学問的成長の共有」「豊かな人格的交流の存在」「一人ひとりの能動的な関与」という3つの条件が必要です。本学部では社会学部棟の専用教室で全学年に多数のゼミ（基礎演習、専門演習）が開講され、高い履修率を誇ります。少人数教育のゼミが、アカデミック・コミュニティのコアになっています。

「社会学fes」の開催

ゼミ同士の交流を深めると同時に、1年生に2年はじめのゼミ選択の情報を提供するために、毎年11～12月に通称「社会学fes」を開催。研究発表会では、各ゼミのプレゼンテーションと教員も加わっての討論会を実施。ゼミ説明会では、1年生が各ゼミのブースを訪問。交流会ではパーティー形式で教員と学生が情報交換をはかります。

フィールドワークの多面的な展開

本学部では、ゼミや実習でのフィールド学習を重視しています。社会科学の研究を進めるためには、まず何よりも現場において社会生活の現実を知ることが必要です。現場（フィールド）での学習・研究活動が、私たちの「問題意識」を触発し、「コミュニケーション能力」と「チームワーク」を鍛え、「学問的探求心」を高めてくれます。フィールドワークには、①国内・国外のフィールドに出かけて、その現状を観察すること、②その現場での社会活動に実際に参加してみること、③データを収集・分析し、研究レポート・論文を作成すること、④これらの活動を通じて得られた情報や成果を報告書やメディアコンテンツとして作品化し、外部に向けて提言・表現すること、などの多様な局面があります。社会学部では、さまざまなフィールドワークへの参加を通じて、本物の「学問的充実感」を得ることができます。

多様なメディア制作のフィールド

研究の成果を作品として、メディアを通じて外部に発信していくことも、本学部における活動の重要な柱の一つです。研究発表会での報告書の作成、論文の執筆はもちろんのこと、映像作品やデジタルメディアコンテンツの制作、討論会・講演会の企画・実施など、社会学部にはさまざまな「創作活動」の機会があります。その活動を通じて、仲間たちと協力しあいながら、「伝える力」を高めていくことができます。

充実の外国語教育

外国語教育も重視し、特に英語、ドイツ語、フランス語、中国語は高度の選択的学習機会を保障。必修科目に加えて中・上級科目を選択すれば、最大各38単位まで卒業必要単位として認定されます。また、米国（ボストン大、UCサンディエゴ校）、カナダ（トロント大）、中国（北京師範大）へ半年間（半期）、カナダ（アルバータ大）へ1年間（通年）の留学制度を実施。より多くの学生を海外へ送り出すために、希望者が増えれば定員も増員する方針です。SA奨学金も用意しています。



社会学部60年の歴史と現在、そして未来へ。

1880年（明治13年）	東京法学社設立
1881年（明治14年）	東京法学社講法局が独立して東京法学校となる
1886年（明治19年）	東京法学校内に東京仏学校設立
1889年（明治22年）	東京法学校と東京仏学校とが合併して和仏法律学校と改称
1903年（明治36年）	和仏法律学校法政大学と改称
1920年（大正9年）	大学令により法政大学となり、法学部と経済学部を設置

- 1952年（昭和27年）社会学部を当時の麻布校舎に設置
- 1955年（昭和30年）社会学部、市ヶ谷キャンパスに移転
- 1957年（昭和32年）応用経済学科を設置（1学部1学科）
- 1960年（昭和35年）社会学科を設置（1学部2学科）
- 1984年（昭和59年）社会学部、多摩キャンパスへ移転開始（1988年に移転完了）
- 1996年（平成8年）応用経済学科を社会政策科学科に名称変更
- 2002年（平成14年）メディア社会学科を設置（1学部3学科）
- 2006年（平成18年）7コース8プログラム制導入
- 2012年（平成24年）社会学部創設60周年

対 談

なぜ私たちは 社会学を学ぶのか

船橋 晴俊
社会学部
社会政策科学科教授

茅野 恒秀
社会政策科学科 2001 年卒業
信州大学人文学部准教授

4 年間で段階的に課題に取り組むことで 総合的な研究技法を習得することができます。

船橋:茅野さんが社会学部を選んだきっかけは何だったんですか？

茅野:高校生のとき、大学では環境問題を社会科学のアプローチで勉強したいと思い、いくつか本を手に取りました。そのなかに船橋先生の『新幹線公害』があり、社会学的なアプローチをとっても新鮮に感じたことがきっかけになりました。

船橋:ゼミの運営ではいろいろと工夫をしているけれど、学んだことのなかで何が大切でしたか？

茅野:船橋ゼミは「研究の方法」に力点があり、4 年間で学年ごとに積み上げて行く学習ができ

ました。2 年次には研究の技法と社会学の古典を学び、3 年次には社会調査に取り組みました。そうした理論と実証をふまえたうえで、4 年次の卒論での総合的なアプローチにつながりました。

船橋:大学院に進学してからも学部ゼミ生と一緒に青森での地域開発の調査を続けましたね。そこでは何が得られましたか？

茅野:金山行孝先生のゼミが 1972 年から始めた調査を引き継ぎ、40 年間にわたる調査資料を、船橋先生、金山先生と私の共編で、むつ小川原開発の「研究資料集」として出版できました。これでもう一度卒業証書をいただいたような気がしています。こうした充実した調査経験があったので、私も大学の研究者になれたのだと思います。ところで、先生は社会学部で教えていて、どうしてもときに張り合いを感じますか？

船橋:用意したゼミの教材やプログラムと、学生が求めているものが、ぴったりとかみ合って、一年ごとにゼミ生がぐんぐん伸びていくのが感

じられるときですね。

茅野:学生の就職支援についてはどうですか？社会学部ではいろいろな取り組みを行っていると思いますが。

船橋:最大の就職支援は、学生に本気で学ぶ機会を提供することです。本格的に研究能力と知識を身につけることで形成された思考力には、学生諸君が実社会で活躍する術が集約されていると思います。

Prof. Harutoshi FUNABASHI

専門は環境社会学、社会計画論。日本学術会議連携会員、原子力市民委員会座長。主な著書に、『組織の存立構造論と両義性論－社会学理論の重層的探究』（2010 東信堂）、『社会学をいかに学ぶか』（2012 弘文堂）、『むつ小川原開発・核燃料サイクル施設問題』研究資料集』（2013 共著 東信堂）など。

Tsunehide CHINO

社会政策科学科 2001 年 3 月卒業。現在、信州大学人文学部准教授。主な著書に、『環境政策と環境運動の社会学』（2014 ハーベスト社）、『「辺境」からはじまる－東京／東北論』（2012 共著 明石書店）など。



商品企画書に通じる正解・不正解のないテスト

北本 裕子 さん （株）バンダイ 勤務（社会学科 2006 年 3 月卒業）

「新しい雑誌の企画書を書きなさい」「山手線の車内ディスプレイを使ったコンテンツを考えなさい」私が大学在学中に受けたテストの一例です。わくわくして、興奮しながら解答用紙を埋めたことを今でも鮮明に覚えています。高校時代までに受けたテストとは全く異なる、明確な正解・不正解のないテスト。逆を言えば、満点のその先があるテスト。私は現在、玩具メーカーで商品企画やキャラクタープロデュースの仕事を担当していますが、そこにも明確な正解はありません。社内はもちろん、消費者の想像を超えるような提案を常に求められます。社会学部は本当に様々な世界へと繋がっています。そこには実践力をつける環境もあります。どこへ繋がるのかは自分次第。私の場合、正解のない解答用紙は未来の商品企画書に通じていたようです。



夢を恥じることなくかかげること

鈴木 健太 さん 埼玉県警 勤務（社会政策科学科 2014 年 3 月卒業）

私が所属していたゼミでは、現代政治分析、国際政治学、哲学などの学問や、学会運営、国会見学、ディベート大会などの様々なことを学ぶ機会を先生に与えて頂いたため、多くの分野の学問にチャレンジすることができ、仲間と刺激的な日常を過ごすことができました。また、大学では多くのかけがえのない仲間と出会うことができました。仲間は皆、将来のヴィジョンをはっきりと持ち、夢を恥じることなくかかげていたため、私も小さい頃からの夢であった警察官になることを決意しました。警察官とは大変な職業ですが、ゼミに所属していたという誇りと、ゼミで培った「最後まで諦めず、やり抜く力」を胸に、日々の仕事を頑張っています。

Q. 卒業生に質問!! 社会学部では何を学べますか？



Web サイトを「形」にしていく楽しさ

小田 哲平 さん （株）ミツエーリンクス 勤務 Web ディレクター（社会学科 2008 年 3 月卒業）

社会学部では Web サイトの企画制作を行うゼミに所属し、自分はデザイン担当として仲間と日夜議論し実際に Web サイトを「形」にしていく大変さや楽しさを経験しました。卒業後は Web 制作会社に入社、ディレクターとして顧客企業の Web サイトに関する様々なプロジェクトに参加しています。仕事では、顧客と対話し戦略や要件を決め、社内のデザイナーやエンジニアなどのプロジェクトメンバーと議論、Web サイトをより良い「形」にしていく能取りの役割を担っています。そこでは Web の知識だけでなく、クリエイティブの良し悪しを判断する力、そして何よりも社内外の人の対話力が求められます。ゼミでの制作経験、ゼミ生たちと議論した経験は今の仕事の基礎となり、7 年目を迎える今、自分の強みとして活かしています。



現場の声の大切さ

山本 千暁 さん メガバンク 勤務（メディア社会学科 2014 年 3 月卒業）

ゼミの街頭世論調査で学んだことを銀行での仕事に活かしていけると考えています。私は社会学部で政治学のゼミに所属していました。そこでは選挙に対しての国民の意識や考え方を知るために街頭に立ち、通行人の方に政治に関する世論調査アンケートを行いました。立ち止まってアンケートに答えてくれる方は少なく、辛いと思う場面もありましたが、その一方で文献等を読むだけでは得ることができない情報や考え方を知ることができました。この経験を活かし、社会人となり、働いていく場面においても自らの行動で手に入れた「生の情報の大切さ」、「現場の声の重要性」を意識して働く社会人になりたいです。

社会学部のキャリア支援

キャリア形成科目

学問の学び方や社会とのかかわり、どんな視点で職業を考えるかといったキャリアをデザインするうえで役立つ科目が開設されています。社会学部ではキャリア支援科目として右記のような科目を推奨しています。

- ・キャリアデザイン論
- ・職業社会論
- ・社会を変えるための実践論
- ・インターンシップ A/B/C

エクステンション・カレッジ

エクステンション・カレッジでは学生のみなさんはもちろん、広く一般社会人の方などを対象に様々な公開講座を開講しています。資格取得を目指す講座や語学力向上を目指す講座、文化教養講座など、さまざまなプログラムを実施しています。学問研究の面白さ、生活を支えるスキルや資格、生活を潤す楽しみの機会を提供しています。

公務員講座

本学の「公務員講座」では、1年次からの段階的な学習カリキュラムで公務員試験対策に取り組むことができます。筆記試験だけでなく、卒業生公務員の講演、志望先の選択や面接対策のための個別指導など、内定獲得まで徹底的にサポートします。

TOEIC®テストスコアアップ講座

TOEIC®テストの出題傾向を熟知した日本人講師が担当します。短期間で得点を向上させるために、TOEIC®の出題傾向を理解し、制限時間内に問題を解く練習を行います。講座と自己学習の両輪で試験対策を進めていけば大きな成果が期待できるでしょう。

教職課程

社会学部では、中学・高等学校の社会科関連教科等の教諭一種免許取得が可能です（下記参照）。毎年およそ30人の学生が教育免許を取得し、さまざまな教育関連職に就いています。教員を目指すためには、まず基礎的な資格として学士の学位を得る（大学を卒業する）ことが前提です。その上で、教育職員免許法に定められている所定の科目、単位を修得し、実際に中学・高等学校の教壇に立って授業を行う教育実習を受ける必要があります。

取得可能な教員免許状

学 科	中学校教諭一種	高等学校教諭一種		
	社 会	地理歴史	公 民	情 報
社会政策科学科	○	○	○	—
社会学科	○	○	○	○
メディア社会学科	○	○	○	○

※上記のほか、図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事（任用資格）、博物館学芸員の資格課程も受講できます。

キャリアセンター

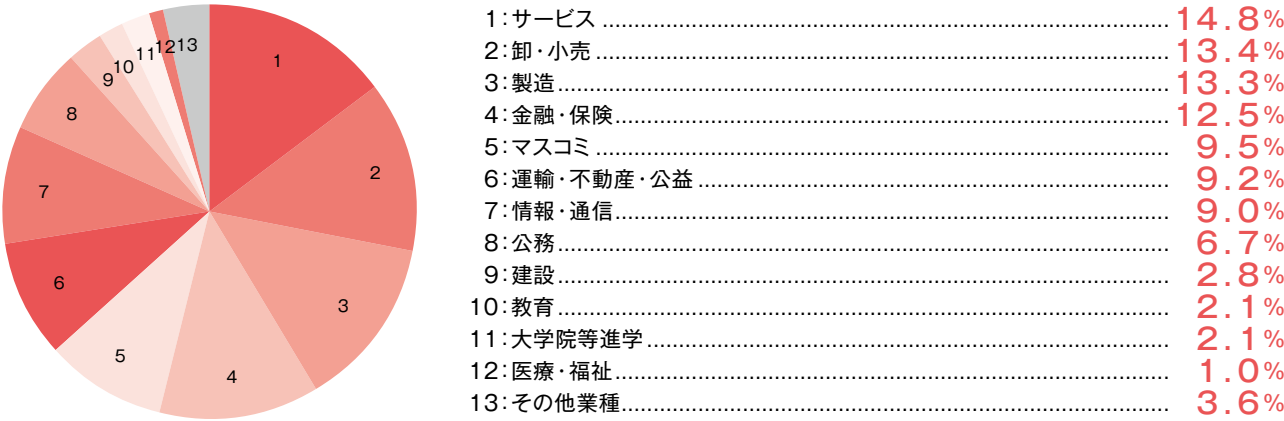
キャリアセンターは単に“就職指導を受けるところ”というイメージが強いかもしれませんが、実は生涯を通してのキャリア形成を考えるためのアドバイスやサポートを受けられる場所でもあります。全学年を対象にきめ細かくサポートできるよう、コンサルティングスタッフ、設備、就職支援プログラム、情報を充実させています。ぜひキャリアセンターを積極的に活用してください。

就職希望者決定率（2014年3月卒業生）

※1：就職希望者決定率は、「就職者」「進学者」以外のうち、進学準備・公務員試験準備・留学・アルバイトなどを除いて算出しています。
※2：2014年4月1日調査時点

98.5%

業種別就職状況（2014年3月卒業生）



主な就職先

運輸・不動産・公益	東日本旅客鉄道（株）（JR東日本）、東海旅客鉄道（株）、小田急電鉄（株）、日本航空（株）、全日本空輸（株）、（株）ルミネ
卸・小売	（株）そごう・西武、（株）サンリオ、ブーマージャパン（株）、（株）大丸松坂屋百貨店、（株）高島屋
金融・保険	（株）三井住友銀行、（株）三菱東京UFJ銀行、（株）みずほ銀行、大和証券（株）、（株）損害保険ジャパン、住友生命保険（相）
製造	MeijiSeikaファルマ（株）、サントリー（株）、山崎製パン（株）、大日本印刷（株）、凸版印刷（株）、塩野義製薬（株）、積水化学工業（株）、オリンパス（株）、富士ゼロックス（株）、（株）東芝、パナソニック（株）、ヤマハ発動機（株）、日産自動車（株）
マスコミ	日本放送協会（NHK）、（株）TBSテレビ、（株）ホリプロ、日本テレビ放送網（株）、（株）時事通信社、（株）朝日新聞社
サービス	（株）阪急交通社、日本中央競馬会
公務	町田市役所、東京都庁、八王子市役所、熊本県庁、厚木市役所、江東区役所、荒川区役所、市原市役所、沼津市役所、世田谷区役所、成田市役所、千葉県庁、千葉市役所、匝瑳市役所、相模原市役所、大田区役所、南足柄市役所、柏市役所、板橋区役所、府中市役所、北区役所、練馬区役所、
情報・通信	（株）NTTドコモ、KDDI（株）、ソフトバンク（株）
大学院進学等	法政大学大学院、一橋大学大学院、東京大学大学院、北海道大学大学院

海外留学制度

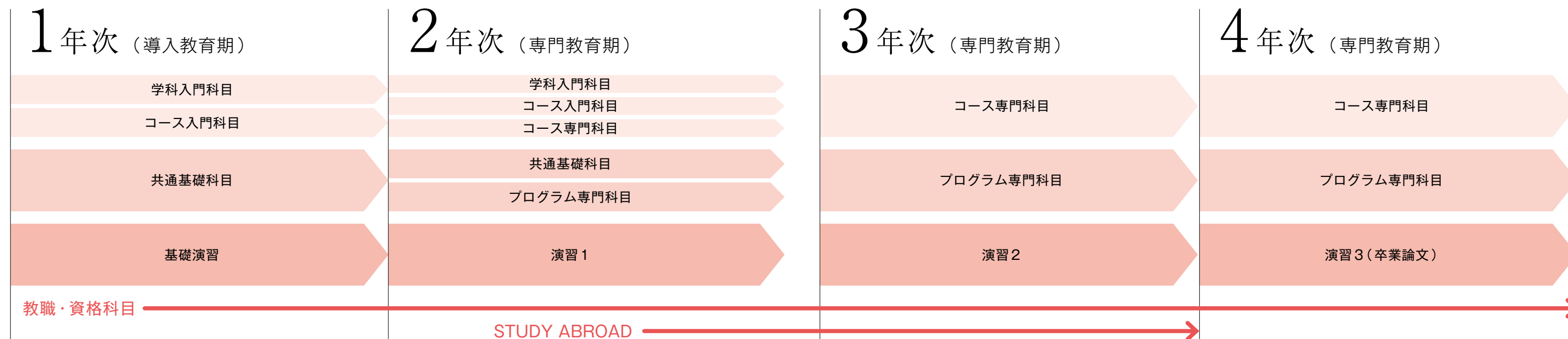
大学の派遣留学制度と社会学部独自のスタディ・アブロード（SA）プログラムを中心に、学生を海外に送り出しています。教育のグローバル化をさらに推進し、高い国際性を身に付けた人材育成を目指します。派遣先で修得した単位は本学の単位に換算して認定するので、カリキュラムに見合った海外留学を実現できるところが魅力です。

社会学部のカリキュラム

3学科・7コース・8プログラム



4年間の流れ



社会政策科学科

総合的な視野と市民の視点で 社会政策を構想し、 提案できる人材を育成。

社会政策科学科では、経済学、経営学、財政学、行政学、法律学、政治学、社会学など、社会諸科学の知識を応用し、現代のさまざまな社会問題を分析・解決するための政策づくりを市民の視点で担える人材の育成を目指します。産業、環境、コミュニティの領域を中心に、政策の実態を具体的に学び、より生活しやすい社会をつくるために、理論だけではなく、社会問題の現場での実習も重視しています。これにより、行政から企業、NGO、シンクタンクなどの分野で、政策提言ができる力を身に付けます。

対象コース

▶ 環境政策コース

さまざまな環境問題の発生メカニズムや、人や社会に与える影響を把握した上で、問題を解決するためにはどのような政策や企業経営、市民運動が必要かを学際的に研究します。

▶ 企業と社会コース

企業経営の諸問題、地域産業の復興、雇用形態や働く人々の変化など多様な問題を扱い、現代の企業社会における問題に対する理解力と対応力を学びます。

▶ コミュニティ・デザインコース

地域社会で起こるさまざまな問題を、コミュニティ形成の視点から考察。行政の改善、住民参加と協力、社会ネットワークの充実など、地域活性化の道を探究します。

▶ 国際社会コース（3学科共通）

国際社会、国際政治、民族問題など、グローバル化が進む現代社会におけるさまざまなテーマを、3学科横断的に研究します。

主な卒業後の進路（過去実績を含む）

五洋建設／ヤクルト本社／アサヒビール／京セラ／大日本住友製薬／三菱自動車工業／三菱東京UFJ銀行／鹿児島銀行／明治安田生命保険／あいおいニッセイ同和損害保険／東日本旅客鉄道（JR東日本）／東海旅客鉄道（JR東海）／西武鉄道／三井不動産リアルティ／関西テレビ放送／岩手朝日テレビ／埼玉新聞社／みずほ情報総研／船井総合研究所東京本社／（財）日産厚生会玉川病院／（社）日本鉄鋼連盟／一般（社）日本自動車連盟（JAF）／（学）青山学院／（学）日本福祉大学／千葉県庁／八王子市役所／東京都特別区



社会政策科学科の魅力とは？

島本 美保子 × 阿部 斗夢
社会政策科学科教授 社会政策科学科3年

社会をさまざまな
角度で分析する、
多角的な視点が必要。

島本：阿部君はどんなテーマに興味がありますか？

阿部：農産物の地産地消やコミュニティです。

島本：社会学と親和的なテーマですね。

阿部：このテーマには何学が親和的かということがあるんですか？

島本：ある程度あると思いますよ。社会政策科学科では社会学だけではなく、政治学や経済学、法律学といったいろいろな方法で社会問題についての政策を探求することができますよね。

阿部：政策ってどんなことですか？

島本：一般には政府がさまざまな課題を解決するための方策のことを指しますが、社会政策科学科ではもう少し広く捉え、NPOなど民間の団体や個人の社会問題を解決するための方策も含めて考えています。

阿部：問題を解決するためには何が必要かということでしょうか？

島本：そうですね。社会科学の方法も現状を詳しく分析することが得意な方法論もあれば、現状分析をひっくり返すと政策提言になっている方法論もあります。社会政策科学科ではさまざまな方法論を学べるので、いろいろな社会問題をさまざまな視点から幅広く分析できて、とても有効だと思います。阿部君にとってこの学科の魅力ってどんなところですか？

阿部：高校までに学習したことのある言葉や事柄でも、かなり掘り下げた学習ができることです。例えば歴史的背景や時代ごとの社会的な流れを掴むことで、どのように現状に至ったのかが体系的に見えてきます。自分たちの生活にはあらゆる問題が絡んでいて、多角的な視点を持つことが必要とされます。そのような視点を持たなければ、鋭い打開策を見出すことはできない。ニュースで報道されていることや、自分たちの今の生活を見つめ、じっくり考えさせてくれるのが社会政策科学科だと思います。

島本：情報があふれかえっている昨今、社会についてきちんと自分の視点で考えられるということはとても大きな財産ですよね。

Prof. Mihoko SHIMAMOTO

博士（経済学）、専門は環境経済学、特に森林問題。主な著作は『森林の持続可能性と国際貿易』、東京：岩波書店、2010年2月。『Forest Sustainability and the Free Trade of Forest Products: Cases from Southeast Asia, Ecological Economics 50(1・2), pp.23-34, (with Fumikazu UBUKATA, Yoshiki SEKI), September 2004. など。

社会政策科学科STYLE

- Q1** なぜ社会政策科学科を選んだの？ **Q3** 現在取り組んでいることを教えてください。
- Q2** 社会政策科学科のいいところは？ **Q4** 将来の夢、目標は何ですか？



山本 真里那

社会政策科学科3年
主専攻／コミュニティ・
デザインコース
副専攻／人間・社会コース

- A1:** 地域社会の様々な問題の実態を学び、地域活性化に関わりたと思ったからです。
- A2:** わたしたちの身近な様々な問題や、その解決策を考える力を身につけられることです。
- A3:** 現在はファイナンシャルプランニング (FP) 技能士2級取得のため、5月に行われる試験に向けて勉強をしています。
- A4:** FP 技能士資格を取得し、活かすことのできる銀行や不動産で働きたいと考えています。



小林 実希

社会政策科学科3年
主専攻／企業と社会コース
副専攻／政策リテラシー
プログラム

- A1:** 社会の問題を学び、その解決策までを見つけるのを目標としているのが1番の魅力でした。
- A2:** 様々な分野を学べるところです。興味の幅の広い私にとって、ぴったりな学部だと思いました。
- A3:** ゼミ活動です。講義だけでは得られない実際の活動を通して、様々な経験が得られます。
- A4:** 大学で学んだことを生かして、社会や企業においても積極的に政策提言をできる人になりたいです。



村上 勇人

社会政策科学科3年
主専攻／コミュニティ・
デザインコース
副専攻／公務員プログラム

- A1:** 町づくりとコミュニティに関心があったためです。
- A2:** 総合的で幅広い視点で、政策的課題について取り組むことができる点。
- A3:** ゼミでの個人テーマの研究に取り組んでいます。
- A4:** 現在は公務員講座にしっかり取り組んで、国家公務員一般職試験に合格することが目標です。

PICK UP SEMINAR 01

間島 正秀ゼミ

政策提案能力を育てる

私の演習では、国や自治体の行政活動や政策の現状と課題について、事例分析と理論的な枠組の両面からアプローチすることを通して、公共分野への問題意識を深めるとともに現実を踏まえた「政策提案能力」を養成することを目指しています。また、分権改革をはじめとする、近年の国・地方を通ずる政治・行政体制再構築に向けての変動過程について認識を高めることも、ゼミの重要なテーマとして位置づけています。

ゼミ活動としては、文献や資料の講読、自治体訪問、行政スタッフとの意見交換、政策論題に関するディベート、ゼミ生各自が関心のある具体的な政策問題に関する研究テーマに即しての調査・報告書作成などを実施しています。さらに、ゼミ生全員の共通研究課題を設定し、その課題に対して多面的かつ批判的な見方が醸成されるような調査研究活動がなされるように努めています。このように、具体的な政策づくり、制度づくりに焦点をあてていることが、当ゼミの特色といえるでしょう。

【主な卒業論文テーマ】

自治体の基本条例と市民参加について／防災都市づくりについて——2つの大震災の教訓から学ぶ／ネット選挙導入とその影響について／道州制導入の是非について／路線バスの減少と代替手段について



教員紹介

①専攻 ②ゼミナールまたは研究テーマ (2014年4月1日現在)

糸久 正人 専任講師

- ①イノベーション論、ものづくりマネジメント、標準化戦略
- ②グローバル社会における多様な企業の戦略的行動に関する研究

岡野内 正 教授

- ①社会理論、国際政治経済学、平和学
- ②国際社会の国際関係、中東研究

堅田 香緒里 専任講師

- ①社会政策、福祉社会学、ジェンダー論
- ②批判的社会政策論、貧困・ジェンダーをめぐる諸問題の分析および対策

上林 千恵子 教授

- ①産業社会学
- ②日本の外国人労働者問題と移民政策

北浦 康嗣 准教授

- ①理論経済学、公共経済学
- ②税、公共支出など政策効果の研究

公文 博 教授

- ①多国籍企業論
- ②個別企業を対象に海外進出成果を研究する

高 美智 准教授

- ①メディア・文化・映画研究
- ②映画・文化理論研究、映画・メディアにおける表象分析

島本 美保子 教授

- ①環境経済学・森林問題
- ②世界の食糧問題

ジョージ・ハン 専任講師

- ①English Education (英語教育)
- ②Drama in English Education (ドラマ・演劇を取り入れた英語教育)

白鳥 浩 教授

- ①政治学理論
- ②現代政治分析 (市民・選挙・政党・国家)

関口 浩 教授

- ①財政学、地方財政論、租税論
- ②財政学演習 (地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究)

滝沢 カレン 教授

- ①言語学、英語教育、文学
- ②日米会話比較研究、シェイクスピアや現代ドラマを通しての英語教育

田口 博雄 教授

- ①経済政策論、金融・国際金融論
- ②最近の経済政策や企業行動についての調査

田中 充 教授

- ①環境政策論
- ②環境問題の課題と解決

中筋 直哉 教授

- ①地域社会学
- ②コミュニティの心情と論理

長沼 建一郎 教授

- ①社会保障法・社会保障論・保険論
- ②社会保障および生命倫理をめぐる諸問題。介護事故、公的年金と私的年金、保険と契約の結節

長谷部 俊治 教授

- ①行政法、国土・都市・地域政策、環境と開発
- ②都市という現象の総合的な解明

船橋 晴俊 教授

- ①社会計画論、環境社会学
- ②環境問題・地域問題をめぐる社会計画・市民運動を調査に立脚して研究する

間島 正秀 教授

- ①行政学、政策過程論、地方自治
- ②公共政策、地方自治、現代行政分析

増田 正人 教授

- ①国際経済・国際金融論
- ②グローバルイノベーションを考える

鞠子 茂 教授

- ①生態系生態学、植物生態学、環境科学
- ②eco 検定受験、低炭素社会に寄与する生態系炭素隔離技術、外来植物の侵入と定着

PICK UP SEMINAR 02

関口 浩ゼミ

社会生活の基盤となる財政を学ぶ

「財政学」というと難しいと考える人が意外に多いのですが、私たちは財政とともに社会生活をしており、実はかなり身近なものなのです。関口ゼミを卒業する際には「財政」を3年間学んできた意義を感じられます。そう感じて社会学部を巣立つことが関口財政学演習の目標といえます。2年次は先輩方の姿を学ぶ見習期間で、3年次ではゼミで20年弱の間続けてきている他大学との合同ゼミでの研究成果を、学年の仲間とゼミの季刊誌「財政学研究」にまとめます。4年次は財政学に関する卒業論文を各自執筆します。

特筆すべきは日本の大学で唯一、沖縄のキャンパスで海兵隊と交流を持つことで、その他さまざまな企画を通して、生涯の友といえるようなゼミ生同士のつながりを築き上げることゼミの目標となっています。研究面でも、その他の活動面でもゼミ生の縦と横のつながりがどこのゼミよりも強いといえ、ゼミが創設された地である金沢時代の先輩や市ヶ谷の大学院在学・修了生 (若い世代や社会人ともに) とも交流をしています。

【主な卒業論文テーマ】

所得税の現状分析と所得税改革／地方財源としてのカジノ税の可能性／平成の大合併と財政調整制度～埼玉県秩父郡大滝村の事例より～／義務教育費国庫負担制度に関する一考察／国民健康保険の財政健全化に関する一考察／再生可能エネルギー事業による地域の活性化と財政

社会学の主要理論をベースに 現代社会の実態を捉える 知識・方法論を習得。

社会学科では、社会学の主要理論をベースに、心理学や教育学などの人文科学からのアプローチも動員しながら、人間や文化、コミュニティ、地域研究、国際といった、さまざまな対象を多角的に分析します。現代社会のあり方を問い直し、常に変化し続ける社会現象の実態を捉えるための知識や方法論を学びます。同時に、「社会調査実習」などのフィールド学習により、主体的に社会の現場に出て社会生活の現実を知ることによって分析能力を磨きます。

対象コース

▶ コミュニティ・デザインコース

地域社会で起こるさまざまな問題を、コミュニティ形成の視点から考察。行政の改善、住民参加と協力、社会ネットワークの充実など、地域活性化の道を探究します。

▶ メディア社会コース

互いに影響し合うメディアと社会について、多角的に分析。メディアの果たす役割と問題を考え、社会にとって望ましいメディアシステムを構築する能力を養います。

▶ 人間・社会コース

現代社会における人の生き方や生活を、家族、ジェンダー、教育、社会思想など主題に即して、社会科学・人文科学の諸分野から総合的に研究します。

▶ 国際社会コース（3学科共通）

国際社会、国際政治、民族問題など、グローバル化が進む現代社会におけるさまざまなテーマを、3学科横断的に研究します。

主な卒業後の進路（過去実績を含む）

長谷工コーポレーション／大和ハウス工業／雪印メグミルク／大日本印刷／エーザイ／協和発酵キリン／沖電気工業／ソニー・ミュージックエンタテインメント／バンダイ／エイベックス・グループ・ホールディングス／ミキモト／東急百貨店／セブン・イレブン・ジャパン／みずほ銀行／商工組合中央金庫／野村證券／大和証券／大阪瓦斯／全日本空輸／東京メトロ／東急コミュニティー／りそなホールディングス／東京ドームホテル／朝日新聞社／読売新聞社／河北新報社／東宝／電通クリエイティブX／公立大学法人横浜市立大学／神奈川県庁／長野県庁／相模原市役所



社会学科の魅力とは？

鈴木 智之 × 浦上 章子
社会学科教授 × 社会学科3年

人と関わり、
生き方の多様性に
触れる。

鈴木: 浦上さんにとっては、社会学ってどういうものですか？

浦上: 社会学を勉強して、私は少し救われた感じがしています。いろんな人がいて、いろんな生き方があっていいんだということを学びました。自分の中でもややと抱えていたものがあったんですけど、それもありのようになって思えるようになりました。

鈴木: もう少し具体的にいうと…

浦上: たとえば、人と人との関わりの中でもうまく自分のことを伝えられない自分がいて、それって自分がダメなんだって思っていたんですけど、社会学の講義を聞くとそういう経験も相互作用の構造として理解できる。ちゃんと理由があって、説明できることなんだなって分かっていくところがあって。

鈴木: 社会調査実習やゼミでのインタビュー調査なんかに参加して感じたことはありますか？

浦上: ゼミや実習では「人に会う」ことが多くなって、いろんな人の生き方に触れると素直に面白いと思います。障がい者の支援にかかわるような市役所の職員さんやNPOの人の話なんかを聞くと、それぞれの信念にもとづいて活動されていて、揺るがないものをもっていらっしゃることがわかって、それがすごいことだと。「考えることの尊さ」というのでしょうか、そういうものを感じました。

鈴木: これからの浦上さんにとって、それはどんな経験になっていくんだろう？

浦上: 大学を卒業したあとも、私は大学で学んだことをベースにおいて生きたいと思っています。それぞれの状況に応じて流されていくこともあると思うんですけど、そのことをちゃんと自覚しておきたいです。社会学は批判的な学問なので、本当にのめりこんでしまうと、ちょっと生きづらくなってしまいかもしれません（笑）。でも、それって「リスクのある薬」のようなものではないでしょうか。社会の中で一つの生き方をしている自分に気づいていること。それが私の力になってくれるような気がします。

Prof. Tomoyuki SUZUKI

専門は文化社会学。物語表象・行為の分析を通じて社会的経験の記述を試みている。著書に『村上春樹と物語の条件』（2009年）、『心の闇』と動機の話（2013年、共に青弓社）他がある。学部では「社会学理論」「人間論」を担当。

社会学科 STYLE

Q1 なぜ社会学科を選んだの？

Q2 社会学科のいいところは？



由井 凌介

社会学科3年
主専攻／人間・社会コース
副専攻／公務員プログラム

A1: 将来の明確なビジョンがなかったので、様々な分野の勉強ができると思い選びました。

A2: 他の学科に比べ、興味のある講義を履修しやすいと思います。

A3: ゼミに所属して政治学を勉強しつつ、様々な課外活動に参加しています。

A4: 地元の長野に帰り、どのような形であれ地元のためになる仕事をしたいです。

Q3 現在取り組んでいることを教えてください。

Q4 将来の夢、目標は何ですか？



後藤 莉子

社会学科3年
主専攻／人間社会コース
副専攻／メディア社会コース

A1: 社会学について一番基礎の部分を知りたいと思い、社会学を選びました。

A2: 社会学の基礎など理論的なことはもちろん、理論だけではなく部分も幅広く学ぶことができます。

A3: 学習面において取り組んでいることは、ゼミでの勉強に加え、英語の勉強や資格取得のための勉強をしています。

A4: 社会学部で学んだことを生かし、既存の価値観に捉われない考え方で社会に貢献できるような仕事。



大海 佳那子

社会学科3年
主専攻／人間・社会コース
副専攻／社会学総合プログラム

A1: 社会学はさまざまな分野を横断して総合的に学ぶことができる場所だと思ったからです。

A2: 社会で「常識」とされていることについて、その根源を追求していけるところが社会学の魅力だと思います。

A3: 家族社会学を学ぶゼミに所属し、結婚や子育て、介護などを社会的な観点から学んでいます。

A4: 中学・高校とソフトボールを続けてきたので、スポーツ用品の開発に関わる仕事がしたいです。

PICK UP SEMINAR 01

池田 寛二ゼミ

環境問題など現代社会のリスクを考える

池田ゼミでは、主に環境問題やエネルギー問題を社会学の視点から研究しています。2004年度にスタートして以来、ゼミ生はさまざまな研究テーマに挑戦してきました。地球温暖化問題のようなグローバルな環境問題から身近なゴミ問題に至るまで、研究テーマは多岐にわたっています。テーマはゼミ生の自発的な問題関心を最大限尊重して設定し、3年間じっくり研究に取り組んで卒業論文に結実させています。2年次では、まだ問題関心が明確になっていない学生が多いため、共通の文献と一緒に読んで報告し合うことで、個々の問題関心を明確化することをめざします。また、研究の進め方やその成果を発表するための基本的な作法（スキル）も、実践的に身につけてもらいます。3年次では、個々の研究テーマを明確化したうえで、一人ひとり研究発表し、それをめぐって全員で討論しながら各自の研究を互いに深めてゆきます。夏休みには合宿も行います。そして、4年次には卒業論文を仕上げてもらいます。

【主な卒業論文テーマ】

小水力発電普及の方法／拡大生産者責任と企業の取り組み／原発安全神話の形成過程とその社会的影響／シェールガス革命の社会的影響／捕鯨問題の課題と未来



教員紹介

①専攻 ②ゼミナールまたは研究テーマ（2014年4月1日現在）

荒井 容子 教授

①社会教育学
②社会教育実践研究、社会教育法制度研究、成人教育・社会教育運動研究、公民館研究

池田 寛二 教授

①環境社会学、リスク社会の理論、アジア研究
②環境問題など現代社会の諸問題を、社会がリスクを生産するプロセスとして研究

金原 瑞人 教授

①英語圏のエスニック文化
②創作（クリエイティブライティング）。小説や詩の創作を通じて、表現力の向上を図る

菊澤 佐江子 准教授

①社会学
②家族社会学

斎藤 友里子 教授

①理論社会学・数理社会学・社会意識論
②公共性社会学：「秩序」の成り立ちについて考える

佐藤 成基 教授

①比較ナショナリズム研究、歴史社会学、社会学理論
②ナショナリズムとグローバル化

佐藤 修一 専任講師

①英語学・英文学
②中世からルネサンスにかけての英語・英文学に関する研究。言語・文学を歴史的・文化的背景との関わりにおいて理解する

壽福 真美 教授

①社会哲学
②エコロジー思想、ラディカル・デモクラシー、身体的理性の社会哲学

愼 蒼宇 准教授

①朝鮮近現代史・植民地研究
②歴史と現代社会

鈴木 智道 准教授

①歴史社会学、教育社会学
②＜日常生活＞の社会学

鈴木 智之 教授

①社会学理論、文化社会学
②物語言説の社会的分析。特に自己と他者をめぐる語りとその社会的条件の研究

鈴木 麻美 教授

①数学（函数論、関数方程式）
②社会が必要とする「数学的思考力」を考える

高橋 愛 准教授

①フランス文学、芸術（主に19世紀後半）
②フランス自然主義文学と視覚芸術の関係、19世紀フランスの表象・心象

多喜 弘文 専任講師

①社会階層論、教育社会学、比較社会学
②教育・労働に関する不平等問題の計量社会学

田嶋 淳子 教授

①国際社会学、移民・エスニシティ研究
②東アジアにおけるグローバル化と日本社会の変容を移住の視点から研究

東郷 正美 教授

①自然地理学
②自然環境をめぐる諸問題

徳安 彰 教授

①社会システム論
②社会現象を人間と社会システムの2つの視点から見る

濱中 春 准教授

①ドイツ文学、表象文化論
②風景をめぐる文化と表象

樋口 明彦 准教授

①コミュニティ政策論
②社会的排除／社会的包摂、若者論、NPO／NGO、働き方の多様化

平塚 真樹 教授

①教育学、人間形成とわが国移行期研究
②＜おとなになる＞ということ～現代社会とひとの育ち・自立・教育～

堀川 三郎 教授

①環境社会学、都市社会学
②歴史的環境保存、まちづくり、住民運動・公害被害地の追跡調査

水野 節夫 教授

①質的分析論、生活史研究
②社会と人間の心理を探る

三井 さよ 教授

①臨床社会学、ケア・支援論
②医療・福祉をめぐる社会問題への相互行為論的アプローチ

矢部 恒彦 准教授

①都市景観論
②まちづくりを身近な生活環境から考える

吉村 真子 教授

①アジア研究、東南アジア地域研究
②国際社会の諸問題（とくにアジアにおける社会・経済・政治・文化など）

PICK UP SEMINAR 02

平塚 真樹ゼミ

＜おとなになる＞ということ
～現代社会とひとの育ち・自立・教育～

このゼミでは、人の育ち、学び、教育といった“窓”を通して、日本や他国の社会について学んでいます。毎年1ゼミ（2年生）後半に、各々の関心を出し合い、話し合いを通じて2ゼミ（3年生）時に一年かけて取り組む共同研究テーマと調査フィールドを定めます。その後の共同研究では夏合宿でフィールドワークを実施し、秋以降は記録化と討議を重ねて報告書をまとめ、何らかの発表の機会を設けています。例えば、2010年度は「困難を背負う若者たち」をテーマに法政大学付属校での特別授業を実施、2011年度は「震災後の学校から見る地方と都市」をテーマに講演会を実施、2012年度は「相模原市から問う学校の役割」をテーマに訪問先への報告会を実施といった具合です。共同研究中心に進めるのは、人の話を丁寧に聴き、自分の言葉で語り、互いの違いを大事にしながら、話し合いを通じて問題を乗り越える関係と力を養って欲しいからです。ゼミで培った関係は卒業後を生きる上でも役立っているようです。

【主な卒業論文テーマ】

フリースクールからみる社会——「学び」ある社会への転換をめざして——学校教育における原子力教育の歴史的考察と科学リテラシーの必要性／学童保育における子どもたちの「問題行動」の理解と「居場所」となる諸条件の考察／格差社会で生き抜くために／他者とつながりある生

情報社会の多様な問題に 広い視野で即応できる多角的思考 と先見性を持った人材を育成。

メディア社会学科では、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど、現代社会に大きく影響を及ぼしているメディアと、社会学に関する理論や研究方法を体系的に習得。情報の受け手としての私たちのあり方や、ジャーナリズムなどのメディアが抱える諸問題への理解を深めることを目標としています。また、映像・広告コンテンツの分析や制作などの実習を通して、多様な側面から情報を読み解き、活用する力を身に付けることもできます。メディア論と社会科学の知識をもとに、現代の情報社会に即応できる能力と先見性を持った人材を育成します。

対象コース

▶ メディア社会コース

互いに影響し合うメディアと社会について、多角的に分析。メディアの果たす役割と問題を考え、社会にとって望ましいメディアシステムを構築する能力を養います。

▶ メディア文化コース

メディアの中の表現や内容を、現代社会のあり方と関連させながら解説。メディア表現に関わる問題探究能力を養うとともに、独自のメディア表現を創造する力を育みます。

▶ 国際社会コース (3学科共通)

国際社会、国際政治、民族問題など、グローバル化が進む現代社会におけるさまざまなテーマを、3学科横断的に研究します。

主な卒業後の進路 (過去実績を含む)

積水ハウス／サントリーホールディングス／ハウスウェルネスフーズ／山崎製パン／共同印刷／ライオン／旭化成／日産自動車／ミズノ／三越伊勢丹／ユナイテッドアローズ／住友不動産／みずほフィナンシャルグループ／東京會館／日本放送協会 (NHK)／中京テレビ放送／東映／産業経済新聞社／熊本日日新聞社／KADOKAWA／マイナビ／AOI Pro. / サイバーエージェント／フジクリエイティブコーポレーション／東急エージェンシー／東京都済生会中央病院／国立大学法人京都大学／(社)日本電機工業会／日本私立学校振興・共済事団／山口県庁

メディア社会学科の魅力とは？

稲増 龍夫 × 中島 叶
メディア社会学科教授 社会政策科学科4年

情報の送り手の 立場を体感する。

稲増：中島くんは社会政策科学科に入学したけど、2年生になって、映像制作の私のゼミを選んだわけですね。

中島：入学した時点では、自分のやりたいことが明確じゃなかったけど、1年生の時に、自分の関心がテレビ関係にあることがわかり、方向転換しました。逆に、メディア社会学科に入ったけど、公務員志望になって政策系のゼミに進んだ学生もいます。大学で実際に学んでから、進路を変えられる柔軟性は社会学部の良さだと思います。

稲増：あなたは、映像制作を体験して何が得られましたか？

中島：実際にニュースなり、ドラマなりを作って、情報の送り手の立場を体感することで、本を読んで勉強するのとは違って、ビビッドな映像コミュニケーションの実態がわかった気がします。

稲増：そうですね。たとえば「やらせは悪い」のは当然だけど、製作者側が、多くの人に関心をもってもらいたいと思って、つい「演出」がすぎてしまうことは起こりえること。どこで線引きをするかは難しい課題で、そのジレンマを体験できたことは、まさに生きた学問ですね。

中島：それに、みんなでゼロからものを作っていくのはなかなか難しいことで、そうした意味での、共同作業を経験できたことは貴重な体験ですね。

稲増：それはメディアに関わらず、社会に出てから、もっとも必要なことかもしれないよ。ちなみに、あなたは地元放送局で、百倍を超える倍率を突破して内定したアナウンサーを辞退して、ドラマ制作を目指すんだよね。

中島：もったいないと言われますが、自分が本当にやりたいことがわかったので、再び挑戦したいんです。

稲増：それが若さの特権だから、是非、頑張ってトライしてみてください。

Prof. Tatsuo INAMASU

専門はメディア文化論で、研究フィールドはアイドルからネットまで幅広い。『アイドル工学』『パンドラのメディア～テレビは時代をどう変えたのか』などの著書があり、ゼミでは映像制作をおこない、卒業生の200人以上がマスコミに就職し活躍している。

メディア社会学科STYLE

Q1 なぜメディア社会学科を選んだの？

Q2 メディア社会学科のいいところは？

Q3 現在取り組んでいることを教えてください。

Q4 将来の夢、目標は何ですか？



関口 大紀

メディア社会学科3年
主専攻／メディア文化コース
副専攻／メディア社会コース
※1

A1: 将来はメディアに関わる仕事につきたいと思っていたため。

A2: 実習系の授業が多い。メ社！と縮めて言いやすく、かっこいい。入門科目も面白い。

A3: ゼミ活動。多くの他大とは異なり2年次開始なので大変ですが、毎週たくさんの刺激を受けています。

A4: 漫画編集者になること。渋いおじさんになること。



沢津橋 真子

メディア社会学科3年
主専攻／メディア社会コース
副専攻／メディア文化コース
※1

A1: 小さい頃から身近だったメディアを通し、自分も何か発信していきたいと思ったから。

A2: 自ら制作する授業があること。机上の勉強ではわからないことも気付ける。

A3: 有料コンテンツを制作している。SNSなどソーシャルメディアの活用を考えている。

A4: 媒体は何であれ、自分の関心を発信して、他から関心を惹くこと。



原子 峻一

メディア社会学科3年
主専攻／メディア社会コース
副専攻／メディアリテラシー
プログラム
※2

A1: 小さい時からメディア関係で働きたいと思っていたので、この学科に惹かれました。

A2: メディア業界での経験談や、研究中のテレビ番組など興味の持てる授業が多いところ。

A3: フリーペーパー制作。多摩キャン生がより充実した生活を送れるようにしたい。

A4: メディア関係に就き、誰かの心に強く響くものを発信したい。

※1：2014年度以降入学者のカリキュラムでは、メディア社会コースとメディア文化コースを主専攻・副専攻で組み合わせることはできません。
※2：2014年度以降入学者のカリキュラムでは、メディアリテラシープログラムは、メディア制作プログラムに変更となりました。

教員紹介

①専攻 ②ゼミナールまたは研究テーマ (2014年4月1日現在)

青木 貞茂 教授

- ①広告学
- ②高度消費社会における広告プランニング研究

荒木 暢也 教授

- ①米国ジャーナリズム研究
- ②米国報道メディア情報にみる日本像

稲増 龍夫 教授

- ①メディア文化論
- ②ビデオ映像製作を通しての現代メディア文化の実践的理解

宇野 斉 教授

- ①組織行動科学、社会ネットワーク論、経営学
- ②社会ネットワーク論、組織論、意思決定論

大崎 雄二 教授

- ①現代中国における国民統合・民族政策
- ②現代中国(東アジア)地域研究

奥 武則 教授

- ①日本近現代史・ジャーナリズム史
- ②日本近現代史および現在の状況から、ジャーナリズムのあるべき役割とそれを実現する道を考える

金井 明人 教授

- ①認知科学・人工知能と映像の修辭学
- ②映像と物語の関係と、その受け手への効果を認知科学の立場から分析する

越部 清美 准教授

- ①舞踊教育学、体育科教育学
- ②身体文化について考える／体験する

小林 直毅 教授

- ①メディア文化研究
- ②メディア表象としての現代社会を読み解く

謝 荔 教授

- ①文化人類学、中国・日本社会の生活文化の比較研究
- ②祝祭日の社会変化に関する研究

白田 秀彰 准教授

- ①情報法・知的財産権法
- ②情報社会と情報産業の調査研究
プレゼンテーションの技法

鈴木 宗徳 教授

- ①社会学史、理論社会学
- ②現代における批判的社会理論の課題

田中 優子 教授

- ①比較文化、文学、メディア史
- ②江戸時代の諸文化の研究を通して、現代社会の価値観・メディア・循環社会の問題を考える

津田 正太郎 准教授

- ①マス・コミュニケーション論、政治社会学、情報化社会学
- ②取材活動を通じた実践的メディア理解と分析

土橋 臣吾 准教授

- ①メディア論、コミュニケーション論
- ②デジタルメディアの実践的研究

藤代 裕之 准教授

- ①ジャーナリズム論、ソーシャルメディア論
- ②ソーシャルメディア時代のジャーナリズムのあり方を考える／Entrepreneurial Journalism

藤田 真文 教授

- ①コミュニケーション論、メディア論
- ②マス・メディア(テレビ)のテキスト(内容)分析

水島 宏明 教授

- ①メディア論、テレビジャーナリズム論
- ②ドキュメンタリーの取材と制作を通して社会問題と向き合い、発信する

諸上 茂光 准教授

- ①理論脳科学、認知科学、広告科学
- ②脳科学に基づいた視点から、消費者心理・消費者行動の分析を行い、効果的なマーケティングや広告手法の提案を行う

横山 浩司 教授

- ①心理学・人間科学論
- ②人間科学論の諸問題

PICK UP SEMINAR 01

小林 直毅ゼミ

しなやかに、多彩に、
社会を生きる学びの力

このゼミでは、「経験」を振りまわすだけでもなければ、「頭でっかち」にもならないメディアの学びを繰り広げています。「思想・理論あつての実践、実践あつての思想・理論」がモットーです。

読みごたえのある研究書を読んで議論をする。テレビ番組や映画、雑誌や新聞の記事を分析して現代社会、現代史を読み解く。フィールドワークで人びとの生活に触れて、それをメディアでどのように描き、語っていくかを考える。そうした成果を、他大学との合同ゼミで発表して研究交流を図る。そして卒業論文を執筆する。考えてみれば、これは大学の学びとして当たり前のことです。しかし、ゼミ生は自信と確信をもってそれに取り組んでいます。

だから、卒業生は、新聞、映画、テレビ、広告だけではなく、大手メーカー、デパート、総合商社、航空会社、大学院進学といった多彩なキャリアを歩むことができます。現代社会をしなやかに生きる。これがゼミの目標です。

【主な卒業論文テーマ】

障がい者のメディア表象／核をめぐる「知」と言説の戦後史／福島原発事故から見る戦後日本の社会構造／テレビニュースの再考／社会問題を愁訴するテレビドラマ



PICK UP SEMINAR 02

土橋 臣吾ゼミ

まだ見ぬメディアを発想する

少し聞き慣れない言葉になってしましますが、メディア研究で使われる用語に、メディアの「可能的様態」という言葉があります。今はまだ見えてないけれど、可能性として潜在的にありうるメディアの形のことです。私たちのゼミでは主にインターネットや各種のモバイルメディア、あるいはAR(拡張現実)、メディアアートなどの領域で、その「可能的様態」を探っていきたいと考えています。そのために、私たちはまず自分たちの日常から発想して、デジタルメディアでどんなことができたらしいか、役に立つか、喜んでもらえるかを様々な方法で考え、企画立案し、実際に作ってみる、という活動を続けています。独自の企画でデジタルメディアに向きあい、ごく簡単なものでも良いので、何か新しいサービスや作品を作り出す活動です。まだまだ実験的なものに過ぎませんが、たくさんのトライ＆エラーを積み重ねて、デジタルメディアの「可能的様態」を少しでも多く見つけたいと思っています。

【主な卒業論文テーマ】

人と街の関係の再構築～脱舞台化した街で新しい都市体験は可能か／「つくる」プラットフォームの可能性～生産＝消費者とマスコラレーションから見るGitHub／コミュニケーションを誘発するインターフェース～「しなくていい」から「したくなる」HCIへ／知育玩具としてのスマートフォンおよびアプリケーションの有用性／ウェブはヒップホップの「現場」になりうるか～「現場」の変容とヒップホップの未来

People's File

社会学部ピープルズファイル

People's File:01

Asuka Takahashi

高橋 明日香

社会学科2年



答えがないのが社会学の魅力
アナウンサーを目指して広い視野で物事をみる。

何よりも大切なことは、
“挑戦すること”

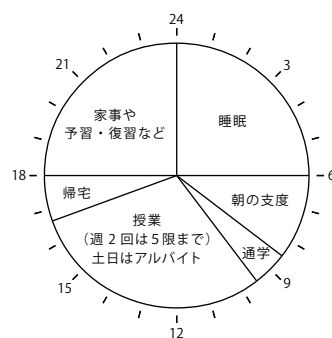
「広い視野から物事を見ることを学び、将来はアナウンサーになりたい。」これは、私が社会学部の受験を決めた時に描いた思いです。

とは言っても、社会学がどのような学問であるのかというイメージは漠然としていました。しかし、オープンキャンパスで模擬授業を受け社会学への魅力を感じ、惹きつけられるものがありました。それが何だったのか入学当初は私自身よくわかっていない部分もありました。大学に入ってから今まで以上にニュースを見るようになり、興味を持ったことは文献

を読み、自ら学ぶ機会が増え、そこで社会学の魅力が“答えがない”ということにあると気付きました。自分自身がどう思うのか、何を感じたのかということが答えであるからです。

自由な時間が増える大学生には行動力が求められていると思います。私は今、アナウンススクールに通い、社会学だけでなく様々な勉強をしています。まだ将来やりたいことがないという人もたくさんいると思いますが、何よりも大切なことは“挑戦すること”です。そして、いかに努力をすることができるか。新しいことを始めるのに不安はつきものです。広い視野を持ち、自分の将来と向き合いたいと思う人はぜひ社会学の世界に飛び込んでみて下さい。その行動力は必ず自分の糧となります。

高橋さんの1日のスケジュール



グローバルな時代に対応した
報道の仕事に携わりたい

私が通っている多摩キャンパスは、周りが木々に囲まれているため、夏は緑が生い茂り、秋は紅葉がとてもきれいで、大学に通いながら四季の移ろいを楽しむことができとても魅力的なキャンパスです。さらに、中央図書館は静かで落ち着いた雰囲気が保たれており、講義に関連する本を読んだり、自分の興味のある本を探したりと勉強に集中しやすい環境が整っています。社会学部の授業は、3つの学科の学生が混ざる時も多く、個性を持った人達の中で授業を受けるため、毎日がとても刺激的です。空き時間には食堂を利用し、広々と

したスペースで友人と親睦を深める時間も大学生活の中での楽しみの一つです。

私は将来、報道の仕事に携わりたいと考えているため、毎日テレビやインターネットでニュースをチェックすることは欠かせず、新聞を数種類見比べたりと、社会の動向には常に興味を持っています。今後、日本のグローバル化がさらに進むと、世界情勢が今以上に日本に影響することになります。そのような状況で迅速に正確な情報を知るためには、現在求められている以上の英語のスキルが必要になるでしょう。そのため、英語の学習には特に積極的に取り組んでいます。

社会学部は自分の興味関心のあることがあれば、それと正面から向き合えるだけの環境が整備された学部だと私は思います。

People's File:02

Izumi Matsuda

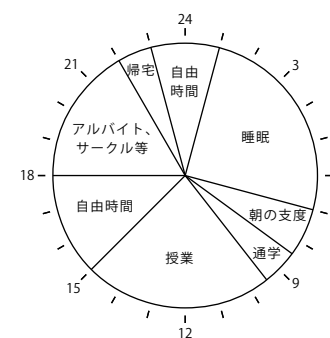
松田 出海

メディア社会学科2年



ジャーナリストになるため
毎日ニュースのチェックは欠かせない。

松田さんの1日のスケジュール



法政大学多摩キャンパス

HOSEI UNIVERSITY TAMA CAMPUS

〒194-0298 東京都町田市相原町4342 TEL: 042-783-2351~4

〔京王線〕 新宿駅から特急で45分（急行で50分）、めじろ台駅下車、バスで約10分

〔JR線〕 中央線：新宿駅から快速で54分（特別快速で42分）、西八王子駅下車、バスで約22分

〔JR線〕 横浜線：新横浜駅から38分、相原駅下車、バスで約13分

※上記各バスで「法政大学」下車



グラウンド



法政Vブリッジ



総合棟

総務課事務室、環境センター、キャリアセンター、総合情報センター、ボランティアセンター、障がい学生支援室のほか、約200席ある食堂や書店・売店などがあります。



社会学部棟

11階建ての高層棟であり、多摩キャンパスのシンボルの存在です。教室、ゼミ室、多目的施設、社会学部事務課、掲示板などがあり、学生生活の中心になるところです。



センタープラザ

社会学部棟と現代福祉学部棟の間にある大きな広場です。バスケットゴールも設置され、スポーツもできる多摩キャンパスならではの開放的な空間です。



EGG DOME

正門右手に建つオーバル型の多目的共用施設で、2階にはホールや喫茶・ラウンジ、3階にはシャワー室、ロッカーなどがあり、課外活動の拠点としても利用されています。

多摩キャンパス概要

多摩キャンパスは多摩丘陵の西端に位置し、里山の森を切り開いてつくられました。敷地内には4学部の建物やスポーツ関連施設が置かれ、その周囲を豊かな森が覆っています。多摩校地の学生一人あたりの面積は市ヶ谷校地の42倍であり、使える建物面積もほぼ2倍で、広いのびやかな環境は学生の心身に良い影響を与えています。また、豊かな自然は環境教育の実践の場としても活用され、郊外キャンパスならではの教育研究や地域交流が行われています。



図書館

約160万冊の蔵書を誇り、情報カフェテリア、AVライブラリーなどもある学生の研究拠点です。5階には日本最古の社会科学系の研究所である大原社会問題研究所もあります。



百周年記念館

多言語対応もできる国際会議場や洋室（シングル14室、ツイン4室）、和室（4室）の宿泊施設などがあり、教員立ち会いのもと、学生の合宿も可能です。



大学生協

本や文房具、日用品など学生生活に必要なものが揃います。ゼミ合宿、免許合宿の予約、バス回数券の購入もここですることができます。



社会学部食堂

室内の約650席と、テラス席が約60席あり、落ち着いて食事ができる多摩キャンパス最大の食堂です。ヘルシーで充実したメニューで学生生活をサポートしています。

豊かな自然環境

多摩キャンパスは東京ドーム20個分に相当する豊かな里山林の中にあります。春夏秋冬それぞれに美しい景観が見られ、様々な生き物と出会うことができます。とくに秋はカエデやケヤキの紅葉、コナラの黄葉がキャンパスを美しく彩ります。また、この森のおかげで夏は涼しく、冬は暖かい環境で生活することができます。キャンパスに通う学生は、こうした素晴らしい森に囲まれながら勉強やサークル活動をしています。

